

2013年3月19日

## 内ヶ谷ダム 転流工事予算編成に抗議する

長良川市民学習会

板取川自然探索・山童

NPO法人ギンブナの会

河口堰に反対し長良川を守る岐阜県民の会

長良川河口堰建設に反対する会・岐阜

長良川水系・水を守る会

岐阜県は平成25年度予算編成において、内ヶ谷ダム建設について前年予算の約3倍の11億5300万円(国庫6億2810万円、県債5億2490万円)の事業費を計上し、平成27年度本体工事着手のために河川を一時的に切り替える転流工の着手を明らかにした。

内ヶ谷ダムは、2009年からの全国84箇所の再検証ダムとして、2010年から再検証に付された。しかし、設置された「検討の場」は、「結論ありき」の中身の薄い議論に終始した。県民からは自然豊かな溪谷の破壊に反対する声、治水の効果に疑問の意見、厳しい県財政のもとでの巨額な事業費支出の心配などが多く寄せられた。私たちは、事業推進の立場だけでなく批判する専門家を入れた検討会の開催や県民参加の議論の場を求め「一時踏みとどまって事業を検討する」ことを要請してきたが、見切り発車で事業継続が「承認」された。

この度の予算編成の内容は、これらの県民の疑問・不安に挑戦するもので見逃すことはできない。とりわけ内ヶ谷の心臓部にナイフを突き刺すともいえる転流工事の着手を予定した予算に耐えがたい苦しみと怒りを感じる。

予算では大盤振る舞いの岐阜県支出5億2490万円が計上されたが、これは全額県債つまり借金で私たちや次世代に負担がまわされる。次世代に残さなければならないかけがいのない内ヶ谷の自然環境を破壊して、次世代に借金をツケまわすという恥ずかしい行為は認められない。起債許可団体に転落した県財政危機のもとで県民は「行財政改革アクションプラン」による福祉医療費の大幅削減・行政サービスの低下に我慢させられてきた。その我慢をアダで返すこの度の「清流破壊の借金」予算に怒りを持って抗議する。

また、予算では事業完成予定を平成37年度とし、先の「検討の場」で提起した平成39年度より2年早めているが、安倍政権の「人よりコンクリートへ」路線の先頭を突っ走ろうというのか。目先のカネで目をくらませ貴重な県土の自然、長良川の清流の源を破壊する内ヶ谷事業予算編成に断固抗議する。

私たちは一時踏みとどまって事業を再検証し、真の『清流の国ぎふ』づくりにふさわしい県土づくりを求める。

以上。